

## 天理図書館蔵『庭訓私記』翻刻（一）

小木曾 千代子

ここに翻刻するのは、天理大学附属天理図書館所蔵の貴重書『庭訓私記』である。本書の内題は「庭訓私記上」及び「庭訓往来私記下巻」である。形態は袋綴。奥書に

江州弥高寺悉地院此本有ト云云

とあり、また、天正十年（一五八二）に写し置いたと書きとどめて

持主関東相模国三浦之住人盛教坊

と記す。内題より「盛教坊」まで一筆である。本書の解題は翻刻終了後に予定している。意味の通りにくい箇所は、異本の東京大学史料編纂所蔵本（謄写本）と校合することにより理解できる場合がある。

なお、『庭訓私記』翻刻に当たり所蔵者より許可された翻刻番号は「天理大学附属天理図書館本翻刻第一三五六号」である。御許可をいただき感謝し御礼を申し上げる。

## 凡例

- 一、翻刻は、原本に忠実であることを旨とし、意味の通じない箇所もそのままとした。誤字、脱字を括弧内に補った箇所もあるがこのような処理は最小限に抑えた。
- 一、字体は、一部を除き現行字体に改めた。仮名として用いられた「井」「子」は「卍」「ネ」と変換した。
- 一、合字は一字ずつ表記した。
- 一、踊り字は、漢字の場合は「々」、仮名の場合は「ヽ」「ヾ」と表記し、原本の「ノ」「ハ」はそのままとした。踊り字に濁点がついていない場合はそのままとした。文字を再度記入することを省略した縦線は「―」で示した。
- 一、原本の仮名は大小の使い分けが統一されていないものの原本通りとし、大小が明確でない場合は私に判断した。
- 一、補入文字は原本通り右に記し、補入符は ㄱ で示した。
- 一、異本注記と推測される書き入れは、書き入れの位置に細字で示し、場合によっては当該文字の後に括弧でくくって示した。送り仮名の異本注記は、送り仮名の後に中黒を打ち注記の文字を「我子」の如く記した。
- 一、原本に句読点は存在しないが私に加えた。朱点の中黒で示した。
- 一、印字できない文字は ㄱ で示し括弧内に推測文字を「カ」の如く示した。他の文字に置き換えた場合は、原本の文字を括弧内に説明した。また、稿者の推測による文字も「カ」あるいは「カ」の如く記した。
- 一、破損による不明文字は ㄱ で示し、字数不明の場合は「」で示し、その文字が推測可能な場合は括弧内

に記した。

一、見せ消ち、上書きはその旨を括弧内に注記した。

一、原本の「云云」は、本文に対して翻刻ほどの細字ではないものの印字の都合上この大きさととなった。但し、斜めの字配りは原本通りであり、踊り字を用いていないのも原本通りである。

一、各状はその日付を以て見出しとしてあり、頭に朱の を付す。翻刻もこの見出しを目安とし、文中にある場合も改行して掲げた。また、朱合点を目安に改行した。よって改行は施注語彙<sup>二</sup>ことではない。

一、原本に丁付はないものの私に「オ」、「ウ」の如く各面の始めに示した。よって一行目は合点による改行とは限らない。

一、必要に応じて文中に括弧を以て注記した。

一、4ウ及び13ウの図は、形を写して注釈文の後に掲げた。

(翻刻)

1才

庭訓私記上

凡此書者仁王九十六代後醍醐天王御宇北畠<sup>一</sup>玄惠法印<sup>二</sup>撰<sup>三</sup>見<sup>四</sup>夕<sup>五</sup>り。此玄惠八藤原氏。所生力北畠ノ人成八北畠<sup>一</sup>玄惠ト申ス。居処八叡山之被<sup>レ</sup>拳<sup>二</sup>上綱<sup>三</sup>故<sup>二</sup>二号<sup>三</sup>山門上綱<sup>ト</sup>。上綱八官也。然<sup>三</sup>時代仁王八十代高倉院御宇ト云人アリ。其八惠シ。爰<sup>二</sup>聚分韻八虎関之作也。是既<sup>二</sup>仁王九十四代祐条院嘉元年中ト有。虎関八玄惠<sup>一</sup>ヲ也。然八時代後醍醐院ト吉歟。或人ノ物語<sup>三</sup>云、玄惠ト虎関跡ヲサシ互<sup>三</sup>夢心<sup>二</sup>

仏經ヲ踏ト見驚キ給テ從今後智者ナトノ跡ニ不可寢云伝侍リケリト云。山当才覺ノ案者作者第一之上手ト八澄宝岡（二字で憲カ）与其沙汰申セシ也。玄惠平家ヲ作給時車八両乗破彼方此方之万ノ事ヲ聞集メ平家ヲ草案シ給テ參内被申時宿ノ亭主玄惠法印ニ申様ハ

1ウ

此際宿申候甲斐ニ我子ニ手本遊シ給候へと申ケレハ折々次ニ文章一ツ宛遊シ給ラ取聚十二月二次第シ文ノ数廿五通ニ連ネケル。是ヲ奉帝王ニ御覧余ニ天下ニ弘伝ト宣旨ヲ給ケルト云。又一義ハ山中一之御兒姓ニ此書ヲ綴リ聚被參トモ承候。已上此書ノ時代縁起如此歟。惣而公家ノ文書十三部所謂尺素之往来、明衡ノ往来、新撰遊覚往来、朗（言に朗）詠、式条、庭訓等也。望詩歌ヲ則ハ朗詠ヲ書、望手本ヲ則ハ明衡ノ往来ヲ書、言物語則ハ源氏伊勢物語ヲ云（書カ）也。題号ニ庭訓者孔子ノ家語ト云物之本ニ一巻有。是ニ庭教ト云事有ヲ片取庭訓トハ云也。其故ハ孔子ノ子ニ白鯉魚ト云物有。子ニ父教ヘ不給。或時白里魚庭ニ来ル時子ノ曰、為學詩乎。未智答。子ノ曰クハ學詩ヲ勿物云事。此時鯉魚毛詩三千篇ヲ學シタリ。毛詩ハ大唐ノ落書ト云。其後鯉魚又庭ヲ走ル時子ノ曰ク為學礼乎。未レ知ラ答。

2オ

子曰、不學礼莫立事云。鯉魚聞重テ為読礼記ヲ。或時陳亢里魚ニ問テ曰、父何ヲ力教ヘ給ヤ。里魚曰、父未何事ヲ教給。或時庭ヲ走。啾呵而云、不カ學詩不カト學礼。此両度ノ語ヨリ外ニハ何ヲモ教ヘ給フ事ナシト云フ時陳亢云、問レテ一ヲ得レタリ三。聞詩聞礼亦聞ニ君子ノ遠ニコトヲ其子ヲ本付ク。夫為レ父道不レ教不可有為レ君ト臣ヲ不誠不可有。是又此之（云カ）ソト云。魚（里カ）魚既ニ過レルコト庭ヲ二度也。學レ是今ニ云、一庭訓トモ只庭

訓往来トモ申ス也。往来ト者古往往来ノ義也。云意ハ古ヲ尋往テ書記シ今歸来テ教示ト云義也。又云ウ一書往レ彼則返答此ニ来カ故ニ往来ト云也。又此書ハ惣而作者ノ才覚口ニ任テ書タル抄ナレハ前後首尾文段調ル事ナシ。是迄ハ題額体成カ追而可問也。一ッ空ニ云時八庭訓、本ニ向テ読時八庭訓ト云也。其故ハ論語ナトモ本ニ向テハ論語ト讀ニ空ニ読時八論語ト云也。

正月五日ノ文ニ

春始ト書事ハ春モ九十日有間只春ノ御悦ト書ケハ不知時分。故ニ平ラ二ト

2ウ

春始ト書給也。新春ナト、書キテハ歸テ比興成カト云。ケニモ春始ト云ハ新字改字ハ自ラ聞ル也。旧抄云、春ハ蠢也トテ万物冬籠隱居セシカ春立今日ヨリ八万物蠢キ出レハ又万ニ渡テ物ノ始ル義目出度。故ニ春始ト御書候カト覚致也。蠢ハ蠢クト讀也。御悦トハ正月朔日ノ御悦ラ云尔也。

向貴方トトハ二説也。一ハ我先親方タル人ヲ云也。一義ハ其年ノ遊年ノ方ヨリ歳德来給ヘハ其方ヲ向貴方ニ云義有。夫歳德神ハ槩古大王ノ乙姬本地文殊ト申ス。名ヲハ待達神ト云。彼神遊ヒ給フ方ナレハ向テ万ノ祈誠ヲ申間向貴方

先祝申候ト云。畢ニ畢ニ云時少替也。畢又ハ終タル義、畢ンハ可終也。候ハ男ノ辞也。サフロウハ女房ノ詞也。

富貴トハ富ハ錢米充滿スル義、貴ハ官位也。

万福ハ天ノ福・地ノ德也。

幸トハサキワイ、

甚ハ幾クト云意。故ニ何事モ幸イダント云義也。

抑トハ復也。又々ト云意也。如此詞ヲ教相ニハ決前生後ノ字ト取ル、上ラ受下ラ述ルヲ云故也。

朝拜ハ臣タル者ノ

3才

君ヘ出御申元日ニ拝ミ奉ラ歳初之朝拜ト申也。旧抄ニ曰、天皇ハ必ス元日先冠ラ召シ天ノ四方ヲ拝シ給也。

朔日ハ朔ハ蘇也。生也。師趨卅日終テ正月元日改故ニ晦日ハ灰也。死也。一月ノ終ハ死スル意也。

元三トハ三ケ日ノ事云。小有。其故ハ上古ハ正月ノ祝儀廿日迄也。其後余久敷トテ三ケ日ニ縮也。今モ侍方

ニ八廿日正月トテ祝給也。正義八日ノ始、月ノ始、年ノ始、此ニ義ヲ元三トハ云也。

次テニ急キ可申之処トハ君ヘ参内申次ニ貴方ヘモ可申処ニヲソナワルト云意也。

人々トハ公卿、殿上人ノ事。

子ノ日之遊トハ撰政、閑白、公卿、各正月初子ニ年中風雨霜雪ニヲカサレ又様ニトテ東ヘ出、三尺ノ松ヲ根

引シ七本合、玉簪トテ五色ノ糸ニテ結イ座ヲ掃キ身ヲ摩ル、意ハ松カ万歳ノ齡ノ可保也。菅丞相詩ニモ因テ松

根ニ摩レハ腰ヲ千年ノ翠リ満リ手ニ折テ梅花ヲ挿レ頭ニ二月ノ雪落レ衣ニ云。又子ノ日ハ泰山府君ヲ祭ル日也。其故ハ南

極寿星老人ノ祭ル此星ハ福祿寿ノ三ヲ掌ル間

3ウ

祝テ初子ニ祭ル云。夫子ハ十二支ノ上成故ニ天子モ人民ノ上ニ成八大王松遊之子日ソト祭ル。子ハ又北ヨリ来ハ北

州ノ千年ノ齡目出ケレハ彼是祭始也。此祭過テ公卿各詩歌管弦ノ遊有<sub>ト云</sub>。又正月・一日ハ羊日・二日ハ鹿日・三日ハ鷄日・四日猪日・五日ハ牛日・六日ハ馬日・七日ハ仁日トテ七日ノ間畜類来<sub>テ</sub>毎日ツ、カナク祭リ事賢王ノ御代ハ有也。七日ハ成<sub>レ</sub>人ノ始<sub>ル</sub>日ナレハ仁日ト云カ。五節供ノ第一トスル。此日<sub>コナケ</sub>糝<sub>・キ</sub>トテ七草ヲ集<sub>メ</sub>候草互ニ支度<sub>シ</sub>君<sub>モ</sub>供御有<sub>ト承</sub>ル也。其歌ニ・芹・ナツナ・五刑・田平子・仏ノ座・ハコヘ・ス、シロ是ノ七草ト読リ。或説ニ昔<sub>シ</sub>天竺ニ大曇王ト云ル大外道有。仏法<sub>サマク</sub>妨<sub>ル</sub>間加璃(月ヘン)帝王此外道ヲ殺<sub>シ</sub>肉<sub>ゼン</sub>遷丹ト云薬リヲ練<sub>テ</sub>此<sub>ヲ</sub>服<sub>ス</sub>ル万民若<sub>ク</sub>帰<sub>リ</sub>病有者即治<sub>シ</sub>国土太平ニシ福寿増長成故三国ニ渡<sub>テ</sub>学<sub>レ</sub>テ是<sub>ヲ</sub>七種ノ糝<sub>キ</sub>スルハ今<sub>ノ</sub>世<sub>モ</sub>万民延命ナラン故也。返々可祝子細也。

谷ノ鶯<sub>トハ</sub>鶯ノ我谷宿寒ニ依<sub>テ</sub>

軒ノ花ノ事ヲ八忘<sub>レ</sub>小蝶毛寒ノ余<sub>リ</sub>朝日影<sub>ニ</sub>ノミ遊<sub>テ</sub>其花ヲ思忘<sub>レ</sub>タリ。

4才

如<sub>ニ</sub>彼等<sub>カ</sub>我等<sub>モ</sub>

乍思御礼無沙汰申<sub>ト</sub>云意也。去間

日ノ影ト読事惡也。然ハ影<sub>ケ</sub>心成間只日影ト読<sub>テ</sub>吉。ノ、字無益也。

頗<sub>ハ</sub>偏也。ヒトヘニト云意也。

楊弓ハ多義有。先賢(右に「玄イ」)宗皇帝三千人ノ后ノ中ニ楊貴妃ノ遊<sub>ヲ</sub>本<sub>ト</sub>而彼<sub>ヲ</sub>始<sub>レ</sub>給<sub>テ</sub>故ニ楊弓

雀小弓トハ申也<sub>云</sub>。其弓ハ古木ノ柳<sub>ヲ</sub>作<sub>レ</sub>弓<sub>ヲ</sub>張<sub>ハ</sub>三尺六寸、木ノ葉<sub>ニ</sub>枝<sub>ニ</sub>雀<sub>ニ</sub>結<sub>テ</sub>付、間<sub>ヲ</sub>九杖(弓<sub>ニ</sub>丈)ニ構<sub>ヘ</sub>

広縁<sub>ト</sub>ナトニテ射<sub>ル</sub>間、楊貴妃ヨリ始<sub>リ</sub>モ小弓ナレハ楊弓雀小弓ト云歟。絃<sub>ハ</sub>琴ノ絃<sub>ヲ</sub>カクル。両端<sub>ニ</sub>角<sub>ヲ</sub>ツ

カイ弓ヲタヨ／＼ト有様ニスル。又一義ハ射時不レシテ立左ノ膝ヲ立、弓ヲ目ノ通ニ揚テ射故ニ揚弓ト云也。雀小弓トハ雀ハ弓法ニコアテト読、何ニテモ有。雀テラ立、射也レ弓。夫羿カ三十二ノ疊紙様ノ中ニ雀テノ弓ト云有ト云。

笠懸トハ大弓馬上ニテ射、的ハ皮ヲ以テヤフサメナトノ如ク射ルト云。馬場ニ町ニシ最中ニ溝ヲ堀リ通ス。上ニ下ニ馬ノ打入ノ溝ヲ堀リ是ヲ足入ト云。足入ノナリハ三角ニスル也。的ハ最中ニ山ヲツキカケル。

## 4ウ

昔頼朝佐竹ノ官者ヲ退治シ鎌倉へ歸陣有時、上野国有野ニ万民見物。其中ノ着笠ヲ一ツ風空ニ吹拳ル有木ニ懸ル。是ヲ弓ノ笠用ヲ撰フニ則小笠原殿射取給ト有。然ハ無左右射給テ後、国モ目出度有ケレハ其時分ヲ例ト而八幡宮ニテ御興行有。初ハ笠ヲカケサセ射後ハ的ヲコシラヘテ遊ス。出立ハ烏帽子直垂ニテ尽ニ曲節ヲ射也。又神武天皇御代ニモ筑紫箱崎ニテ懸ル弓ヲ稽古有。異国ノ鬼神渡ヲ御退治有シ也云。小串ノ会ハ大弓、武士モ射也。紙ヲ四ツニ疊テ六寸ノ串ニ挟。遠近ハ家々ニ定ル也。

草鹿ハワラ、茅ナトニテ生物ノ形ヲ作り足ハナシ。頭ヲアツチヘ向、尻ヲ射手ノ方ヘスル。此草鹿ハ頼朝富士ノ巻狩ノ稽古ヲタメノ故ニ草深ク而鹿ノ足不見。故ニトウト頭計作也。又歌道ニハ芥鷄ヲタ、カワシト云ヘリ。公家ニハ君達ノ態ト云。

円物トハ的ハ如レ鞞。上一尺二寸、中ハ九寸、下ハ七寸、七杖(弓に丈)ニアツチヲ築也。去ハ近キ物ヲ円物ヲケト力是程也。旧抄圖ニ云、(圖)中ハ的也。

(圖)



5才

三方<sup>ハ</sup>ツルト<sup>云</sup>。其天子<sup>ノ</sup>的<sup>ハ</sup>一丈二尺、公卿<sup>ハ</sup>一丈、諸大夫<sup>ハ</sup>八尺<sup>ノ</sup>的也。

三々九<sup>ノ</sup>手夾<sup>ト</sup>云事<sup>ハ</sup>何<sup>ノ</sup>弓<sup>ニ</sup>モ<sup>ニ</sup>手<sup>ノ</sup>矢<sup>ヲ</sup>一<sup>ツ</sup>ハ矢台<sup>ニ</sup>立<sup>テ</sup>残<sup>ル</sup>ニ<sup>ツ</sup>手<sup>ニ</sup>持<sup>、</sup>三度<sup>ニ</sup>射<sup>ル</sup>故<sup>ニ</sup>三々九<sup>ト</sup>云也。

第一<sup>ニ</sup>ハ・サケハリ

二<sup>ニ</sup>・扇

三<sup>ニ</sup>・カウカイ

四<sup>ニ</sup>・々半

五<sup>ニ</sup>・柳<sup>ノ</sup>葉

六<sup>ニ</sup>・カナカケ

七<sup>ニ</sup>・畳紙

八<sup>ニ</sup>・花房或八鼻紙。色々<sup>ノ</sup>曲節<sup>ヲ</sup>射<sup>レ</sup>ハ曲節<sup>ト</sup>云也。是<sup>ハ</sup>人間<sup>ノ</sup>八苦<sup>ヲ</sup>射破意。サレハ今<sup>ノ</sup>智惠<sup>ノ</sup>弓、智惠<sup>ノ</sup>ト云<sup>モ</sup>是也。

経営<sup>ハ</sup>日々<sup>ニ</sup>是<sup>ラ</sup>營<sup>ム</sup>ト云心。又毛詩<sup>ニ</sup>モ經營<sup>之</sup>有。

尋常<sup>ト</sup>ハ訓讀<sup>ニ</sup>不聞。今<sup>ハ</sup>弓<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>云。唐<sup>ニ</sup>ハ只ツネノ義<sup>ト</sup>云。我朝<sup>ハ</sup>勝タル<sup>ヲ</sup>云意。

馳挽ト八馬ト弓トニ云歟。

誘引ト八幟サヨフト也。

府毫ト八懇ニ不及申也。フコウトハ・朽ウ(左に「クチキ」)筆也。筆茗多シ。

莨筆トハ・細キ筆、ウノケ也。・麿筆トハ木ノカワヲカミクタクタルヲ云フ。夫天竺ニ毛恋士ト云者結イ始ト云。

文殊ノ無明指ヲ片取ト云。我ヨリ上ノ人ニハ表書ニ先、謹上候人ト書、我ヨリ下ノ人ニハ恐々謹言、我ヨリ

上ノ人ニハ

5ウ

正月ノ通ヨリ一字上テ書、同輩ニハ正月ニ双テ書、下ノ人ニハ正月ヨリ一字下テ書也。判ト名ヲハ貴方ヘハ右、

卑イヤシ方ヘハ左、同輩ニハ墨ヲ黒ク真ニ書上カリ也。姓ノ上官ヲ書ハ京ケイト函ノ意也。此文一部始終官授領氏計也。

名乗ハ不書ト云。

正月六日之状ニ

改年ト八年改ルト読也。

目出度トハ太神宮天ノ岩戸ニ引籠給フ時天下クラ暗ト成事七日七夜也。諸神達岩戸ノ前ニ色々ノ神參給時天

照太神面白思食、戸ヲ少シ開キ御覽有。其目ノ光ノ出ルヲ見テ諸神喜給フ。目出ルトハ是ヨリ始ト云。其時

太刀雄尊取ニ岩戸ヲ虚空ヘ投給ヘハ天下明也。其御戸ハ信濃国今ノ戸隱ノ明神ト崇申也。太刀雄ノ尊ハ常州志

津ノ明神也。

賀幸ハ何モサイワ幟也。

青陽ハ陽氣東ヨリ發動シ東風ニ二万物地ノ千草モ青タト春始テ萌出レハ青陽ト云。又陰ハ地也。青陽ハ初春ノ異名也。

珍重トハモテハヤスト読也。

堅凍トハ氷厚ク閉テ

6才

中タク寒ケレハ堅凍トハ申也。

薄霞トハ叡山ニ酒伝三位ト云人細々内裏へ参承候。皆ハクガト遊ストテ練色ヲ如此読也。意ハ只立春ヨリハ陽氣ヲ受テ氷トケ霞立ト云義也。俊頼卿ノ立春ノ歌ニ・新玉ノ年ノ三年ヲ待詫テ今日イクカサテ新枕セント。又

可促拝仕<sub>ラ</sub>遂拝顔<sub>ラ</sub>奉公可致事ヲ可<sub>レ</sub>催ス処ト云也。

故障トハ故ナク障ニサユル義候<sub>テ</sub>也。

不慮トハ思之外也。

百手トハ的ノ中ニ墨ニテ輪ヲ三ツ廻<sub>シ</sub>鬼ノ目意得、弓太郎弓次郎トテ一人而矢数百手射故ニ云尔。昔<sub>シ</sub>三皇ノ御代皇帝ノ臣下ニ蚩友ト云者ムホンシ南山ニ楯籠<sub>ル</sub>。彼ヲ殺サン故ニ先、的ヲ五尺八寸ニ張<sub>リ</sub>中ニ輪ヲマワシ彼力目<sub>コ</sub>ト意得、二人ノ射ニ稽古サセラル。蚩友力身ハ皆鉄ニテ目ト足ノ裏計常ノ人也。彼力居処ヲ南山ト書<sub>テ</sub>アツチト読也。我朝ニモ諸伝ヲ、ク袴ヲ着<sub>テ</sub>折烏帽子ヲキ正月六日内裏ニテ卅三人宛立<sub>テ</sub>矢ツホヲ指<sub>テ</sub>一矢宛射<sub>ル</sub>ヲ達者ト申也。鬼神調伏之

6ウ

弓ナレハ神前ノ願ナトニ申射也。

一両輩ハ上ノ弓太郎弓次郎一 一(トテカ) 二人シテ昔ハ射レハ云尔也。

暮目トハ天竺ニ黒泉山ト云山ニハ田鬼ト云鬼有。里へ出、夜々人ヲ取。彼鬼通ル路ニ江南ト云潭アリ。是ニ旧齒

萎ト云暮有。太サハ大象ノ如シ。其鳴声ト眼ノ光事日光ノ如シ。彼ニヲチテ鬼神其後不通。故ニ夫ニ字テ桐ナ(カ)

トテ長一尺二寸マハリ八寸計ニ作リ内裏ナトニテ犬ヲ遊ス矢ナレハ祈祷ニ試也。

一種ハ肴、

一瓶ハ瓶子一ツ宛也。此一種一ハ東山殿時ヨリ用タル事也。

衆中課役ハ打寄意歟。

賭ハ積物也。是ハ射手勝ニ出物也。

引手物惣ノ射手ニ引物也。其ハ亭主之馳走シ調也。

一二トハ委ハ四五六七八九十ト次第而不及申ト也。

面謁トハ面テヲ拝シ尽(見セ消)事(見セ消)時也。

謁トハエツトヨム、致也。

二月廿三日ノ文ニ

遺恨ハノコル恨ミ如シ山ノ、

散意務(霧カ)一ヲトハ胸中ノ思ノ務(霧カ)何ッ晴ンヤ也。

併ト八兔三角ト云意也。

吳越ト八太唐ニ胡ノ国越ノ国ノ間ニ達遷カ原又黒川鏡ト云

フオ

河有。遠サ七百里ト社申ス。如此其方ト我等カ間ハ隔テ遠キタルニ似リト云。又胡越ハ中惡キ也。胡ノ国ノ王ヲハ胡皇房サト申ス。越ノ王ヲハ桂龍王ト申。或時越ノ国ヨリ百万騎ヲ卒(率カ)而胡国ハ責入ル。吳ノ国ノ塚ニ会稽山ノ麓達遷カ原ニテ合戦十三年ニ及ヘリ。越ノ王終ニ切負既ニ桂龍王ヲ虜、土六ニ入ケリ。栗一合宛日ニ一度奉ル。余リノ物憂サニ身ヲ投ト思イ河ノ辺ニ出給ヘ八河上ヨリ札一數流レ來。取上見給ヘ八臣范蠡カ手ニテ命露沆々トシテ助易シ求ントスレハ難シク、唯命ヲ全而再ヒ參洛ヲ詠ント云文ヲ載タリ。御覽有、自害ヲ留。又本ノ土籠ヘソ入給。彼范蠡ト云者ハ君ノ胡国ヘ向ヒ給時色々留メ申セトモ用給ハス。此時范蠡ノ滅亡ナリトテ太臬山ト云処ニ引籠、日ヲ送、君ノ行末ヲ嘆ケケル。或時胡王俄ニ石麻(ヤマイダレに瘠)ヲ煩イ給。色々葉シ申セトモナヲラス。葉師申ケルハ王ノ尿ヲ候人味(西に耳)イ給。其二随テ葉ヲ与ヘ申サント云。ナメント云人ナシ。桂龍王是ヲ聞召、我味(西に耳)トノ給テ尿ヲ試ミ給。葉ヲ与フウ

胡王ニシヨウカチナヲリケル。王此喜ノ余リニ桂龍王ヲ本国ヘ歸シ申サントテ公卿ヲ調ヘ越国ヘソ歸シ申ス。蠡ノ范又出テ国ノ政コトヲヤ奉ル。其後配立ラシ胡国ヲ責テ会稽山ノ麓達遷カ原ニシテ胡王ヲ虜リ恥辱ヲ雪(朱点)給。故ニ是ヨリ世間ニ会稽ノ恥辱ヲ雪ト申習ス。彼山常住雪有ハ恥辱何ヲ以テス、クソ。ナレハ此雪ヲ以雪ツト云意ニテス、クト云字ニ雪ヲ書也。其後范蠡ハ胡国ノ將軍トナリシカ末代ニ又浅猿キ事有シヲ知テ我名ヲ漁夫ト

替<sup>テ</sup>五胡ト云水海ノ辺ニ釣ヲ垂、身命ヲ送<sup>ル</sup>。是偏ニ・功成名酬<sup>テ</sup>身退<sup>ハ</sup>天ノ道成ト云、此意歟。

醍醐八山階ノ并、

雲林院八京ニ有。或人ハウリン<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>トヨメリ。醍醐雲林院八何毛梅ノ道地也。彼雲林院ニ八昔<sup>シ</sup>忘憂花合  
 欽桜ト云名花有。当時京九条ニ渡<sup>レ</sup>ハ其<sup>ラ</sup>盛ト云也。三ツノ名<sup>ハ</sup>御門ヨリノ宣旨也。文字ニ義理ヲ取テ可知  
 也。

嵯峨八西ノ岡、

吉野<sup>ハ</sup>大和<sup>ニ</sup>有。吉野ト読切<sup>テ</sup>

山ノ桜ト読ト云。

難<sup>ク</sup>止<sup>ハ</sup>八不<sup>レ</sup>見<sup>レ</sup>此花<sup>ヲ</sup>ムサ<sup>ク</sup>ト有難<sup>シ</sup>ト也。

此節八

8才

此時也。

徒然トハツレ<sup>ク</sup>ト読、

好士トハ歌道風流ノ達者也。

諸家八諸公卿、武家也。狂人八花<sup>ニ</sup>見入詩歌ニ嘯<sup>ク</sup>体八只狂人ノ様成ハ云尔也。其人ハ

如雲霞多<sup>ト</sup>也。・俊成卿ノ歌ニ・花盛四方ノ山辺ニ蹠<sup>テ</sup>春ハ心ノ身ニソワ又哉ト、千載集ニ有。

乗物八輿車也。

僮僕八供者

難合期<sup>ナリ</sup>二叶<sup>ナリ</sup>也(上書き)。

近隣八家・五<sup>ツ</sup>隣ト云也。隣・五<sup>ツ</sup>ヲ里ト云。

歩行之儀トハカチ<sup>ニ</sup>囊<sup>レ</sup>頭<sup>ヲ</sup>行也。

左道八略義ノ心、

異体八常ノ内居ノ形<sup>チ</sup>ト云心歟。

連歌八長歌ト読也。仁王六十二代村上ノ天皇ノ初<sup>テ</sup>遊ス、小夜更テハヤネムモナリニケリ、重野ノ大臣<sup>ト</sup>

云人付給<sup>フ</sup>、夢モ相ヘキ人ヤ待ラン。

宗匠八連歌ノ師也。是ヨリ

詩連句ノ詠迄八次ノ文<sup>ニ</sup>可聞也。

破籠<sup>ハ</sup>肴入物、

小竹筒<sup>ハ</sup>酒入<sup>ル</sup>物、

隨身ト八手<sup>ヲ</sup>自<sup>ラ</sup>可有持參也。

硯懷紙ト八上代ニ八花見月見ナトニ八其詩歌ヲ読、タンサク書<sup>ケ</sup>ハ薄様ナト懷中セ<sup>シ</sup>ニ依<sup>テ</sup>如此<sup>ニ</sup>云也。

如何<sup>ト</sup>ト読切<sup>テ</sup>

心底ト読也。

二月廿三日返事(原本 の中を朱で塗りつぶす。行末故、目立たせたか。)

花鳥風月八皆前ノ好士ノ学ヒソト云義也。

管絃ト八管ハ吹物、絃ハ彈シ物也。

8ウ

琴ノ如シト云テ絃ハハリキヲ立、糸ヲシメ拳テ引ハ也。

嘉齡八恒例也。

延年八慰ノ意也。或人ヲ博士三日ノ内ニ必ス死スヘシト占フ。彼人然ハ可思出ストテ猿樂ヲサセ見物而既ニ命延ニケリ。半年計而博士申様、貴方ノ命延ル事不審也。扱モ何様ノ事ハシ而命延候哉ト問ヘハ猿樂サセ見

物申スヨリ外八何事モ不仕ト申ス。扱社猿樂ヲ延年ト申ス子細ナレト云。

方也トハ法度之義也。

相叶八何様ノ

興行八神明仏陀モ納受シ給ラン。

叢樹トハ近山之事也。草木慥ニ見ユル山也。

暴風八俄風、

霖雨ハ長雨也。・和歌ハ・神代二八・八雲立出雲八重垣妻籠テ八重垣造ル其八重垣ヲ。是ハソサノヲノ

尊ノ歌。仁王二八十七代仁徳天皇ノ歌ニ・難波津ニ咲ヤ此花冬籠リ今ヲ春辺ト咲ヤ此花。是ヲ歌ノ父母ト申ス。

人丸八四十一代持統天皇ノ御宇ノ人也。住処色々申セトモ下野宇都宮ヲ本説トス。明神ノ社旦ノ辺ニ柿木廿

一年宛ニ自然ト生ヘ替ル。是ヲ由ニ柿ノ本之人丸ト申也。赤人同時代也。人丸赤人ハ一体ノ化身ソト申ス。

山辺ト云

9才

処越前<sup>三</sup>有、京<sup>二</sup>モ有、近江ト筑紫<sup>三</sup>モ有、何ヲ本トスヘキヤラン、人々色々ニ申記也。古風ト八古ヘヲ片取義也。長歌<sup>上</sup>打渡ス遠近ノ人<sup>三</sup>物モウソウソモ其ソコニ咲ル花八何花ソ、モ又カイナウソロシヨ(コ<sup>脱カ</sup>)雲ノヲホシ召ソロワ、ミナ如此云也。短歌八・見柄<sup>ニ</sup>誰<sup>モ</sup>意<sup>ヲ</sup>煩<sup>ス</sup>八形余<sup>リ</sup>ニ勝<sup>レ</sup>ネト身持ヤサシクナト、云、切レ々続キタルヲ云也。是八何程モ続行也。

旋頭ト八題ヲ其儘首<sup>ニ</sup>置ト云義<sup>モ</sup>有。人丸ノ歌ニ・ホノノト明石ノ浦ノ朝霧<sup>ニ</sup>嶋隱<sup>レ</sup>行舟惜ソ思フト有。是ヲ旋頭ノ歌ト申ス。此歌ノ意<sup>ハ</sup>愁傷<sup>之</sup>歌大事ノ習有。

混本ト八上ノ句ノ首ト下ノ句ノ首ト題ヲ<sup>二</sup>ツ<sup>ニ</sup>而置ト云。歌ニ・槿ノ夕影待ス散安キ花ノ夕枯哀トソ見ル。

折句ト八・唐衣着ツ、馴ニシ妻<sup>シ</sup>有<sup>レ</sup>八遙<sup>ル</sup>キヌル旅ヲシソ思フト・五七七七八ト続ケタリ。一句ノノ二理ヲ云、切レ々成ヲ折句ト云也。

沓冠ノ歌ト八五七七々<sup>上</sup>三<sup>八</sup>男スナ下<sup>ニ</sup>八<sup>ハ</sup>メモハヤシ夫婦契ノ歌也。・ヲシハヤメトマヤノ舟モコカレ行須磨ノ浦風浪モ隙ナシ。

輪廻ト八長<sup>キ</sup>夜トヲノ眠<sup>ノ</sup>皆目覚波乗舟ノ音ノ能哉、上ヨリ下<sup>ヘ</sup>從下上<sup>ヘ</sup>クルリ

9ウ

ノノト一<sup>ツ</sup>意ノ様ニ続ル也。・又云、・キシヒコソ松力汀ニ琴ノ音ノトコニ八君<sup>カ</sup>妻ソ恋敷、是ヲ輪廻ノ手本ト云。

傍題八心ナキ年ニモ有哉廿日余リ晦日ト云ニ春八暮又ト、此春ハ三月尽ノ歌ノ題ニ合セ可見。

打越ハ・君力代ノ久シカルヘキ様ニハ兼テソ植シ住吉ノ松、当分ラ閣テ未来ヲ云ヘハ云尔。

落題トハ・秋鹿之秋ノ野原ヲ走ルニハ股四ツタニモ隠レサリケリ・和泉式部力・桃四ト云題ラヨム也。桃ヲ鹿ノ股ニ読事落第也。

詩トハ白樂カ詩ニ青苔ハ似レ衣ニ懸ル岩尾ノ肩ニト云、

聯句トハ字五ツ宛五言ニ対句々々ニ作也。

菅家八天神ノ流、

江家ハ大江ノ千里。又云、江家ノ祖ハ吉備大臣也。此人ハ日本之儒道ハ吉備ヨリ始ル。序ハ一切歌詩ニ端書トテスル者也。表ハ物本製作スヘキトテ天子ヘ奏門申ス状ヲ云也。物本ノ上書ヲ云共有。是ニ定家々隆ノ二様、中ト端トノ習有。

賦題ハ連歌ニハ賦物ノ事、詩ニモ句ニ依テ賦ト云有。

傍絶韻声、何モ詩ニ入ル事也。

猿猴トハ就中淵ニ住物也ト云。猿ハ女

10才

猿、猴ハ男猿、天竺ノ物也。今我体モ人ニ似ル迄能ナシト云意也。

蛭火トハヨノ虫ハ火ニ寄ル。蛭ハ己カ火ヲ持故ニ焼ヲハ猜テ不寄如ク我体モ如此也。殆ハ近也。近キ程ニト云意也。

賦物八賦何路木舟人山ト云字計山何何ト書、余ハ何ノ下ニ書也。是ハ五ケノ賦物之義、小賦物八賦ノ下ニ山ト云字ノ如ク書也。

未練ハ鍛鍊無事也。百度字テ鍛ト云、千度字テ鍊ト云也。只人ハ稽古セヨ也。聊ハ卒度也。

稽古ハ古ヘヲ勘合スル也。

念忙ハ物ノ紛レ多シテアキレ居ラ云也。

毛拳ハ筆ノ事、鬧キニ依テ筆ニモ寸ノ隙ヲ不得ト云意也。

三月七日文

祝言於于今者ハ三月迄遲ソ成ル、然トモ

遂日ラ当春ノ御慶目出度候也。

家門ハ御一門也。

參賀ハ御喜ト也。

神明ハ快也。意者快キ也。

四至ハ四方也。

勝ルハ勝ハ札也。境目ニ勝ヲ指シ炭ナトヲ埋ヨト云意也。

阡陌ハ如次。大ナワテ小ナワテ則東西南北。混ハ合也。雜也。境ノ乱ヲ諍ヲ混ト云。沙汰、文選ト云物

之本沙ヲ汰テ得レ金ヲ。又能々撰フ意也。

10ウ

精籾八委角ニスヲヤリテ事ヲ清クセヨナリ。

椀飯八地下人カ公方人ヲ饗スヲ云也。又正月公方諸大名ニ飯ヲ參セ我モ御前テタブ事也。又

饗膳ハ公卿、椀飯八武家ト云。是ハ一段結構成間送り膳ニシ小飯ヲ別ニ備ル。是ヲタヒ給。地下

目録八所領ニ伝リタル

文書、目ト八古八紙ナキ故ニ札ニ注シ編ム間アミ目也。

取帳八田地ヲ記ルス帳也。

文書八同引付也。

濟例八恒例也。又濟者ハ（上書き）ナラスト云訓有。意八地下人ノナシツケタル例也。

納法八年貢ヲ云也。可宛（被カ）召進ト八前代引付ヲ百姓ニ召進スヘキ也。

容隠ト八罷出可仕所帶物成共我カ八少キナト、テ公方ヘモ罷出サル者也ヲ云。

隠田族八田畠年貢ヲ一貫ノ処ヲ五百ナト、云テ掠メ申間彼罪科ヲ（以下脱字カ）交名八掎也。悪名ヲ掎

可注進也。東作八春始レ作秋取八春ヲ東ト八云也。

兼ト八兼テ占フ也。

水旱八大水日照也。

腴（原本は連に近い字形。庭訓往来諸本は腴、シンニユウに與、迪）八肥地、迫八乾地也。招居

開発八久敷荒タル処ヲ作ル義也。

役ハホネヤミト読也。

修固八修<sup>イ</sup>固<sup>ム</sup>ト云意也。カコム、カイコムトモ読也。

11才

佃八公方ノ田<sup>ラ</sup>百姓ト而作り立進スル義也。

御正作八我ト分宛テ取作<sup>ラ</sup>云也。夫天竺<sup>ニ</sup>（禹に似た字形、古活字版「融」）農<sup>ト</sup>云<sup>シ</sup>人田ヲ作り始ル也。

又毘沙門天作始給。多門天王ノ城ヲ八味戸羅摩耶城トテ毎日白米ノ降都也。姓<sup>ニ</sup>田多<sup>シ</sup>。又田ノ神<sup>ヲ</sup>ハ新烈

ト申奉ル。此本地毘沙門也。又米<sup>ハ</sup>菩薩ト云、種子ノ時ハ文殊菩薩、苗ノ時ハ地藏菩薩、稻ノ時ハ虚空蔵

菩薩、穗<sup>ニ</sup>成時ハ普賢菩薩、飯ノ時ハ觀音菩薩、惣体ハ毘沙門ト申。米ハ古仏ノ御舍利也。日本<sup>ハ</sup>五穀ヲ

八稻荷大明神ノ始<sup>テ</sup>渡<sup>シ</sup>給<sup>フ</sup>ト云。犁、馬牛<sup>ニ</sup>テ田<sup>ヲ</sup>力<sup>カ</sup>ヘス物。是ハ唐ノ高風ト云<sup>シ</sup>物、仕出タリ。

粳ハサクシト読

糯ハネハシト読、西収期ハ秋納ハ也。

苽穎、タノキト読、少<sup>シ</sup>苽初ル<sup>ヲ</sup>云也。又苽穎<sup>コキ</sup>トモ読也。

舂法ハ舂ハウスツクト読也。又焼米ノ事トモ云也。

既得八稻何程<sup>ニ</sup>テ初何程得ルト也。

蕎麦小豆等迄<sup>モ</sup>能<sup>ク</sup>既得ト云也。

畑ハ山野草木ヲ切テ焼<sup>テ</sup>肥<sup>ト</sup>而粟稗ヲ作<sup>ル</sup>ヲ云也。是力三年<sup>ニ</sup>ナルヲ山畠ト云也。其後二年貢ヲ収<sup>ル</sup>也。乾ハカワクト読<sup>リ</sup>。

桑代八畠中、

11ウ

桑ヲ立タルヲ公方ハ奉ル。地子ト八屋敷ノ年貢ヲ取ヲ地子ト云也。

実檢トハコ、ロムル也。檢ハシルスト読リ。

聊以ハ構ヘタル詞、又構テ以ト云義也。

依怙ト者我身ヲ能シ人ヲ操ル義也。意檢法ニシ自由ニ我依怙ヲ不可成也。物ノ余リ残ル物迄憲法スル義也。

御館ハ公方ノ家ノ事、

棟門ハ棟ヲ立テ間（公方）家、門戚カト也。

唐門ハ唐様ノ門也。此方成八山門ナトノ向キ也。柱ノ円ヲ唐居敷ヲ広クシ柱ノ上ニハ組物ヲスル也。

平門ハ上ニ一本横ニ渡シタルヲ云也。

上土門ハ両方ヨリ土ヲヌリ上タルヲ云也。

薬医門此三ツハ武家ノ門ト云。薬医門ハ左右ニ柱ヲ立テ、上ヲ重銅ヲ葺也。地伏ノ木ニ銅ヲ吞セ埋、扉ハナ

キ也。其故ハ医者ノ処ヘハ人往来スル事如成市ヲ夜モ不閉、故ニ扉ナキ也。是ヲ学テ武家ニモ此門ヲ立ル歟。

寢殿八家主ノ臥処也。風雨雪霜ヲ能ク凌カントメニカヤ迄厚ク葺也。

廊ノ中門、

渡殿ハ何モツクリ有ル家ニ有也。

御厩モ如此。中口リノ間客殿作ノ家ニハナキ也。別ニ焼火ノ間ヲスル所也。

学文処ト八別ニ作テ子ナトニ学文

12才

ナトヲサセルカ本意也。大唐ニハ先五経ヲ学スル。一経ヲ三年宛十五年ノ間学スル也。サレハ小倉將監歌ニ・読書殊更入八弓箭取急度廻文急度注進。

公文所ハ算用スル所也。

政所ハ米錢納ル所也。

膳所ハ配膳器具ヲ置処也。

贄殿ハ魚鳥ヲ料里スル所也。

局ハ女房衆之住処也。

部屋ハ内方様之女房休ミ処。

四阿、ヒサシノ様ニ棟ヲ立葺、四方ニ壁ナキ也。材木ハ置処也。

棧敷ハ見物ノ間。サンシキトモニ様ニ読リ。

捷見処ハ中間衆ヲ置処也。又密カニ公事ヲ談合スル処、御密ノ客人ナトヲ扱所也。

侍処ト寢殿トノ間ニ作也。或説ニハ主人ノ産屋共見タリ。是治定ト云。

笠懸之事、必南面ニ云事其館ノ方角ニヨルヘシ。南面ト云ハ朝射ル物也。昼ヨリ前八南ニ之ヒ也(見せ消ち)

陽ノ方ル故也。日ヲ請テ射ル也。

的山ヲツカシム。

蹴鞠ハ鞠ノ坪、四本懸ニハ・柳・松・桜・楓。鞠場ハ暮ヲ本トス。日影家ノ西ニ廻レハ家陰用ルル故ニ東面ト云也。鞠ノ人数ハ十二人。蹴テハ・八人・鞠取一人・棹持一人・検見一人人数  
12ウ

取一人都合十二人。昔天竺ニノ大外道有。曇王ト云。槃胡大皇退治シ彼首ヲ鞠ト名付テ八人ノ童子ニケサスル也。祈祷最極也。四本懸ハ・伊勢・春日・八幡・住吉ヲ勸請ノ木也。

泉水トハ水有庭ヲ山水ト云。水無ケレハ只庭ト云也。滝頭ヲハ北ニ構ル様ニスル也。水ハ北カ得方也。桜桃梨ヲハ何共而東ニ植ル様ニスル也。常葉成木ヲハ北ニ植ル也。但シ庭ノ体ニヨルヘキ歟。

遣水トテ水口ヘ出ス也。

禁忌ハ凶シキ儀ナキ様ニ相計ヘ也。

客殿トハ必ス俗方ヲモ云ト見ヘタリ。

持仏堂ハ先妃ノ位牌所也。

礼堂ハ看經処也。

庵室ハ歸依僧ヲ置所也。

休所ハ主人ノ涼ミ所也。大唐ノ王ノ涼ミノ御所ヲハ高樓ト云也。高ク作故ニ高樓ト云也。・東ヲハ陽樓ト云。花見之樓也。・南ヲハ南樓ト云。朗詠ニ・南樓ノ月ノ下ニハ寒ノ衣ヲウツト有。・西ヲハ西樓ト云。月ヲ詠シテ

是モ西樓ニ月落テナント、有。・北ヲ陰樓ト云リ。雪見ノ樓也。此方ノ樓ハ只朕ト云也。

土蔵ハ才宝ヲ納ル。

文庫八文書ナント納<sub>ル</sub>。是ヲ八

13才

板ニテスル也。

後苑八家ノ後ノ樹木也。

怠慢ハ上ヨリノ仰ヲ侮ル事ナカルヘク下ラヌ様ニト也。

勤仕ハ不<sub>ナ</sub>否<sub>ナ</sub>ニ勤ル義也。

忠賞トハ讚<sub>ル</sub>詞也。玄番ノ允殿政所殿ヘ如此メサレハ忠賞セラルヘシト告申也。

三月十三日ノ文ニ

等閑ハ有<sub>ラ</sub>隙カント云也。彼ト与我等<sub>ク</sub>而不可有余義也。

御下<sub>ニ</sub>文トハ將軍ヨリノ書下<sub>シ</sub>給也。

御教書ハ官領ノ義<sub>ヲ</sub>。長尾殿<sub>ニ</sub>ナトノ書ルノ状也。御下文トハ所帶<sub>ラ</sub>給<sub>ル</sub>状也。官領ハ武衛、畠山、細川三人。

昔ハ御教書<sub>ヲ</sub>公方ノ御書ト申タリシカ今比ハ官領ニ定<sub>テ</sub>御書ト申也。

御奉書ハ公方様ノヲ申也ト云。從官領政所ヨト云状ヲ御教書ト云也。

嚴重トハ無<sub>レ</sub>紛<sub>レ</sub>云義也。

使節トハ荒使<sub>イ</sub>也。始メタル所ヘ入部スレハ百姓ナト不用事有ハ使節遣<sub>ス</sub>也。

遵行トハシタカイ行<sub>ツ</sub>ト訓也。又云、遵行ハ百姓ノ地頭ヲ饗スヲ云也。隨<sub>イ</sub>行義也。

吉書ハ入部ノ初ニ民百姓ニ書出<sub>ラ</sub>サスルヲ云也。

良辰トハ吉キ時ヲ云也。

紛失トハ粉レ失スル也。

失墜、ツヅエシツスル事也。

錯乱ハ咲乱レタル

13ウ

義也。

構申トハ巧レ言ヲ無レ有言心也。

土貢ハ其土貢ニ土産ヲ奉ルヲ云也。

年貢、年ノ乾熟ニ随テ奉ルヲ云也。

尋搜テトハ無沙汰ノ方ヲ尋搜テ可申也。

員数ハ員ハ多キ数ヲ云也。

虹梁トハ家ハ火ヲ忌。然ハ虹ハニシト訓ル水辺ノ虫ヲイキナレハ学テ之ヲ大ナル木横ニカケ渡ス也。是ハ火

伏ノタメ也。

唐居敷ハ門ノ左右ノ柱ノ根ニ敷板也。

鼠走ハケタヨリ屋中へ伝リ置ケル物ヲ云也。

雲肱木ハ雲形也。是モ雲ハ雨ノ類也。

暮俣ハ閣前ノ横渡ル木ニ暮ノ手ヲハタケタル様ニ而中ニ刻物ヲスル物也。是水ニ住物成ハ云尔也。

鴨居モ水辺ナレハ如是。敷居、敷ノ字モ鴨ト云字書<sup>上云</sup>。是モ水辺ナレハ也。

垂木モ軒ノ稜ノ垂ト云義ヲ以テ如此皆水辺ノ物ヲ戸ノ道具ニスル也。戸ハ物ヲ防ク物ナレハ火伏ノ意也。

破風関板、惣風ヲ防ケハ也。

飛縁八本間ヲ下テ張ル縁也。

短柱八簀子木ヲ敷下ノ柱也。

唐垣トハ(図)如此成ヲ云カト云。

(図)



梶障子ハ半分カウシ半分下ヲハ板ニスルヲ云也。是ヲコシ障子ト申也。

連子ハ小波ヲ

14才

学ヒタル物也。連子ヲ漣滋如此書テ吉也。

部ハシトミノ上ニ部ト云草ヲ紋ニスル間云尔也。

決込八戸板ヲ合ルニツノメニ合ルヲ云也。宇立トハ虹梁ノ上ニ有柱也。

杈首ハムカウサス也。

棟樋トハ棟ノ上ニ逆マニ覆ウ樋也。

組桿(押カ)ノ樽

襲木、

檜曾トハ竹ノ如ク小ク長木ヲ不削云也。

足堅ハ柱ノ根ニ有也。鑿歛ノ様ニ柄ヲサシテ板ヲ削ル、又板ヲワル物也。山家ニ板取物持ッ也。一説ハ包丁ノ

様ニ作テ刃ヲ不付樽ヲ分ル物也ト云。

木工寮大工ハ大方下地ノ異見ニ云物也。

巧匠トハ手タレ上手ヲ云也。

陰陽ノカミトハ博士ノ事也。

樹淡トハ柿ノ青キ時サク〜ト云不レ渋物也。

田堵ハ地主百姓也。

土民ハ小作田作者也。

名主ハ其郷ニイク名トテ百姓独而二名三名持也。莊官ハ百姓ノ別ニ大ナル物有ヲ云也。

野心トハ縦ハ雉ノ子ヲコウニ何トエヲカ母ナツクレトモ終ニ野へ行ヘキ意ヲ持間是ヲ野心トハ云也。如此

入部スル処ノ名主、百姓、先地頭ノ鼻眞ヲ而動レハ野心ヲ持故ニ如其ソト今云意也。

責伏トハ云随ヘテ後ト

14ウ

云意也。

進状トハ謹上ヨリ八下也。有職ニハ用付テ進状ヲ高ト思也。惣シテ我ガ親、師匠ナトヘハ伝奏書トテ其御

内ノ人<sup>ニ</sup>侍ナレハ其オトナノ名<sup>ヲ</sup>状ノ面<sup>ニ</sup>書<sup>テ</sup>下<sup>ニ</sup>御申ト書、出家ナレハ宮内殿御申ナト、書也。其時文ノ上<sup>ニ</sup>進上<sup>ヲ</sup>先ツ書<sup>ト云</sup>。

披露<sup>ノ</sup>八文撰ノ表卷<sup>ニ</sup>云、忍奉ル邑人諸草ノヒライ<sup>露</sup>テ後一横<sup>ホ</sup>ノ文万人智ト。是ヲ云リ。人一句シラ又事<sup>ヲ</sup>今始<sup>テ</sup>諸人<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>スル知事。

(続く)